

授業科目	形態機能学 I	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	日常生活行動からみた「からだ」を理解するために動くという行動に関わる人体の構造と機能について学び看護の展開に活用できることを目的に動くという行動に関わる人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解することを目標にします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）			講義
2		生活を支える人体について学習します。			講義・DVD
3		人体の構造と機能に関する化学の基礎について学習します。			講義・DVD
4		細胞と組織について学習します。			講義・DVD
5		皮膚と膜について学習します。			講義・DVD
6		動くことに関する骨の形態と機能について学習します。			講義・DVD
7		動くことに関する関節の構造と機能について学習します。			講義・DVD
8		動くことに関する全身の骨格について学習します。			講義
9		力を発揮する筋肉の構造と働きについて学習します。			講義・DVD
10		力を発揮する全身の骨格筋とその分類について学習します。			講義
11		生活動作のメカニズム「姿勢を保つ」について学習します。			講義・DVD
12		生活動作のメカニズム「立つ、座る」について学習します。			講義・DVD
13		生活動作のメカニズム「起き上がり、歩く（移動）」「つまむ」「表情」について学習します。			講義 演習
14		運動のメカニズム「随意運動」「不随意運動」について学習します。			講義・DVD
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）				
参考図書等	解剖生理学ワークブック（医学書院） からだの地図帳（地図帳・ナース） 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	形態機能学Ⅱ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、息をする・循環する・恒常性を保つための人体の構造と機能について学び、看護の展開に活用することを目的に、息をする・循環する・恒常性機能を保つための人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 息をするという人体の構造と機能について学習します			講義 講義・DVD
2		ガス交換の仕組みについて学習します			講義・DVD
3		呼吸運動の調節について学習します			講義・DVD
4		息をするという人体の構造と機能のまとめの学習をします			講義・DVD
5		血液について学習します			講義・DVD
6		循環器系の構造について学習します			講義・DVD
7		循環器系の機能について学習します。			講義・DVD
8		物質の運搬について学習します			講義
9		循環するという人体の構造と機能のまとめの学習をします			講義
10		非特異的生体防御について学習します			講義
11		特異的生体防御反応について学習します			講義
12		生体防御の発生・発達について学習します			講義・DVD
13		体温の恒常性を保つメカニズムについて学習します			講義
14		生体内の恒常性を保つための構造と機能のまとめの学習をします			
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）				
参考図書等	解剖生理学ワークブック（医学書院） からだの地図帳（地図帳・ナース）講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	形態機能学Ⅲ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、調節機能を維持する・話す・聞く・眠るという人体の構造と機能について学び、看護の展開に活用することを目的に、調節機能を維持する・話す・聞く・眠るための人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 人体の構造と機能から「生きているとはどういうことか」ことについて学習します。			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	生体を包み外界と内部機構を調整し、生活を支える体の形態と機能について学習します。			講義
3		感覚器—情報を得る—について学習します。			講義・DVD
4		神経系—刺激の伝達、情報を処理・指令する—について学習します。			講義・DVD
5		生活を支えるための神経系の機能について学習します。			講義・DVD
6		内分泌系—ホルモンにより液性調節を促す—について学習します。			講義・DVD
7		神経性調節のまとめの学習をします			演習
8		ストレスとストレス反応について学習します			講義
9		異物の侵入、侵襲に対する生体防御について学習します			講義・DVD
10		生体機能の統合性のまとめの学習をします			演習
11		話すという生活行動に関わる構造と機能について学習します			講義・演習
12		聞くという生活行動に関わる構造と機能について学習します			講義・演習
13		眠るという生活行動に関わる構造と機能について学習します			講義・DVD
14		高次機能について学習します			講義
15		まとめ・試験			
テキスト		系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学（医学書院） 田中 宏一：専門基礎分野「解剖学」講義サブテキスト			
参考図書等	解剖生理学ワークブック（医学書院） からだの地図帳（地図帳・ナース） 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	形態機能学IV	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、食べる・排泄するに関わる人体の構造と機能、さらに時間経過における変化（発生・発達・老化）および人間のライフサイクルにおける子どもを産む・新生児に関わる人体の構造と機能を理解することを目的に、看護の展開に活用できることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 食欲と食行動に関する人体の構造と機能について学習します。			講義・DVD
2		咀嚼し味わう体のしくみについて学習します。			講義・DVD
3		飲み込む（嚥下）体のしくみについて学習します。			講義・DVD
4		食物を取り入れ生体を栄養する（消化と吸収）体のしくみについて学習します。			講義・DVD
5		「食べる」体のしくみのまとめを学習します。			講義・演習
6		食物残渣をまとめて便をつくる体のしくみについて学習します。			講義・DVD
7		老廃物をより分け尿をつくる体のしくみについて学習します。			講義・DVD
8		「排泄する」体のしくみのまとめの学習をします。			講義・演習
9		発生の初期過程 について学習します。			講義・DVD
10		女性のからだについて学習します。			講義・DVD
11		男性のからだについて学習します。			講義・DVD
12		妊娠と分娩について学習します。			講義・DVD
13		生児の生理、原始反射について学習します。			講義・演習
14		「こどもを産む」体のしくみのまとめの学習をします。			講義・演習
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）				
参考図書等	解剖生理学ワークブック（医学書院） からだの地図帳（地図帳・ナース） 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	臨床栄養学	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	生体を構成している物質の機能と代謝を理解し、食物を通し看護の対象者の栄養管理を行うために必要な基礎的能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 栄養とは	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 栄養学と看護について学習します。			講義 DVD
2	栄養素の種類とは	栄養素の種類と働きについて学習します。			講義
3	食物の消化とは	食物の消化と栄養素の吸収について学習します。			講義
4	栄養素の代謝とは	血液成分と栄養素、栄養素の代謝・吸収・排泄について学習します。			講義
5	エネルギー代謝とは	エネルギー代謝について学習します。			講義
6	食事摂取基準とは	食事と食品について学習します。			講義
7	栄養ケアマネジメントとは	栄養ケアマネジメントについて学習します。			講義・演習
8	栄養アセスメントとは	栄養状態の評価・判定について学習します。			講義・演習
9	成人期における栄養とは	ライフステージと栄養について学習します。			講義
10	食生活改善への施策とは	健康づくりと食生活について学習します。			講義・演習
11	栄養管理とは	臨床栄養について学習します。			講義
12	事例の状態理解	臨床における栄養管理の実際 (事例) について学習します。			講義・演習
13	事例の栄養状態評価	事例患者の栄養状態の評価・判定について学習します。			講義・演習
14	事例の栄養課題	事例患者の栄養管理について学習します。			講義・演習
15		まとめ、試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院)				
参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 (医学書院)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	臨床病理・病態学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	従来の「病理学」ではなく、看護実践でより必要な、機能的に人間を見、その機能の不調がなぜ起こり、どのように現れるかを理解する病態生理的などらえ方で構成し、病気の理解の基礎となる病因と病変の特徴について理解、臨床場面に即した学習ができること、今後の看護学に活かし看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 身体における本来の働きと乱れについて学習します。			講義
2		炎症と修復について学習します。			講義・DVD
3		変性・壊死について学習します。			講義・DVD
4		腫瘍と過形成について学習します。			講義・DVD
5		身体の不調のとらえ方、各症状の原因と分類について学習します。			講義
6		各症状の発症のメカニズムと分析について学習します。			講義
7		老化と死について学習します。			講義
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院)				
参考図書等	山内 豊明 : ナーシンググラフィカ③ 病態生理学 (メディカ出版)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	臨床微生物学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	微生物とは何か、その原因としての病原体を理解し、患者の体内ではどのように病原体と闘い、排除しようとしているのかを理解し、そのうえで治療法や予防法を学ぶ必要があります。微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び、感染予防の原則と対応について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 微生物とは何かについて学習します。			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	微生物の分類について学習します。			講義
3		感染症の成り立ちについて学習します。 常在細菌叢と菌交代症、			講義
4		感染症の種類について学習します。 :顕性感染と不顕性感染・潜伏感染・日和見感染について			講義
5		感染発病と生体への影響について学習します。			講義
6		感染症と感染経路について学習します。			講義
7		感染症に関する法律について学習します。			講義
8		院内感染とその予防について学習します。			講義
9		病原体と疾患について学習します。 細菌学・新金額・ウイルス学・原虫学			講義
10		病原体と疾患及びその対策について学習します。 滅菌と消毒、感染性廃棄物の処理について			講義
11		臨床に発生しやすい感染症について学習します。①			講義
12		臨床に発生しやすい感染症について学習します。②			講義
13		臨床に発生しやすい感染症について学習します。③			講義
14		臨床に発生しやすい感染症について学習します。④			講義
15		まとめ・試験			講義
テキスト		系統看護学講座 専門基礎 微生物学 (医学書院)			
参考図書等	ナーシング・グラフィカ⑤ 臨床微生物・医動物 (メディカ出版)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論 I	単位数	1	開講時期	1年前期
学習目標	運動機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、今後の看護学に活かし看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容		授業方法	
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 運動機能のフィジカルエグザムについて学習します。		講義 DVD	
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	骨折について学習します。		講義・DVD	
3		脱臼・捻挫・打撲について学習します。		講義・DVD	
4	運動機能障害、骨・筋肉系の解剖生理について	先天性疾患について学習します。		講義・DVD	
5		骨・関節の炎症性疾患について学習します		講義・DVD	
6		骨腫瘍について学習します		講義・DVD	
7		代謝性骨疾患・脊椎の疾患について学習します。		講義・DVD	
8 (45分)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 運動器 成人看護学10 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院)				
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論Ⅱ	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	人間の「話す・動く・見る・聞く」などの生活行動を障害する中枢神経機能・感覚機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、今後の看護学に活かし看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 脳機能の障害を起こす疾病について学習します			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください 脳神経系・感覚器系の解剖生理について	脳神経系のフィジカルエグザムについて学習します。			講義 DVD 講義
3		頭蓋内圧亢進を伴う疾患とその原因・病態生理・症状・経過・検査・治療について学習します。①			講義
4		続・上記内容②			
5		神経変性・脱髄性の疾患とその原因・病態生理・症状・経過・検査・治療について学習します。①			講義
6		続・上記内容②			
7		痴呆・中枢神経系の感染による疾患とその原因・病態生理・症状・経過・検査・治療について学習します。			講義
8		頭部外傷による疾患、二次的意識障害・神経障害を起こす疾患とその原因・病態生理・症状・経過・検査・治療について学習します。①			講義
9		続・上記内容②			
10		神経変性・脱髄性の疾患とその原因・病態生理・症状・経過・検査・治療について学習します。			講義
11		感覚機能の障害による視覚障害を起こす疾病とその原因・病態生理・症状・経過・検査・治療について学習します。①			講義
12		続・上記内容②			
13		聴覚障害を起こす疾病の原因と病態生理、経過、検査、治療について学習します			講義
14		臭覚・咽喉頭の障害を起こす疾病の原因と病態生理、経過、検査、治療について学習します			講義
15		まとめ・試験			
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学 7 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学 12 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 成人看護学 13 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学 14 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院)			
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論Ⅲ	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	人間の生活行動のもととなる「呼吸をする・循環機能を維持する」ことが障害される生命維持機能障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、今後の看護学に活用し、看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 呼吸障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療、予防について学習します。			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	呼吸機能のフィジカルエグザムについて学習します。			講義 DVD
3		呼吸機能の感染症・気道の疾患について学習します。			講義
4		肺の疾患について学習します			講義
5	呼吸・循環器系の解剖生理について	胸膜・縦隔の疾患について学習します			講義
6		循環障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療、予防、循環機能のフィジカルエグザムについて学習します。			講義 DVD
7		先天性心疾患について学習します。			講義
8		虚血性心疾患・心電図について学習します。			講義
9		心筋疾患について学習します。			講義
10		心臓弁膜症について学習します。			講義
11		血管の疾患について学習します。			講義
12		不整脈について学習します。			講義
13		血圧の異常・心不全について学習します。			講義
14		体液の調節障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療、予防、電解質の異常について学習します。			講義
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学2 電子版 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学3 電子版 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院)				
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論Ⅳ	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	人間が恒常性を維持し生活行動できるための「生体防御・内部環境調節維持」機能が障害される生体防御・内部環境調節機能障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、今後の看護学に活かし看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 生体防御機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について学習するための生体防御機能のフィジカルエグザムについて学習します。			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	造血機能障害について学習します。①			講義
3		造血機能障害・移植について学びます。②			講義
4	内分泌系の解剖生理について	免疫機能障害・感染症について学習します。①			講義
5		免疫機能障害・感染症・アレルギーについて学習します。②			講義
6		多臓器不全について学習します。			講義
7		内分泌機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について、視床下部一下垂体系の疾患について学びます。			講義
8		甲状腺・副甲状腺疾患について学びます。			講義
9		副腎疾患について学びます。			講義
10		代謝障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について、糖尿病について学習します。①			講義
11	糖尿病について学習します。②			講義	
12	糖尿病について学習します。③			講義	
13	高脂血症・肥満症・尿酸代謝障害について学習します。			講義	
14	自律神経調節障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について学習します。			講義	
15	まとめ・試験			講義	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学 11 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学 6 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血管 成人看護学 4 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 病態生理学 (医学書院)				
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論V	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	人間の「食べる・排泄する」という日常生活行動の障害となる栄養の摂取・消化・吸収・代謝・排泄機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、今後の看護学に活かし看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義 DVD
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	消化・吸収・代謝障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療を学ぶための消化・吸収機能のフィジカルエグザムについて学習します。			
3		歯、口腔疾患について学習します。			
4		食道疾患について学習します。			
5	消化器系の解剖生理について	胃、十二指腸疾患について学習します。			
6		腸、腹膜疾患 (排便障害) について学習します。			
7		肝、胆嚢疾患について学習します。			
8		膵臓疾患について学習します。			
9		排泄(尿)・男性機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療を学ぶための排泄(尿)機能のフィジカルエグザムについて学習します。			
10		腎疾患について学習します。			
11		腎・尿路系の結石について学習します。			
12		尿路腫瘍について学習します。			
13		感染による疾患について学習します。			
14		男性生殖器疾患について学習します。			
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学5 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学8 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔 成人看護学15 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院)				
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論VI	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	人間の性に関する日常生活行動の障害となる性・女性生殖機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について、および、精神機能障がい者の抱える症状の理解、検査、治療について学び、今後の看護学に活かし看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 性・生殖機能の障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について学ぶための性・生殖機能のフィジカルエグザムについて学習します。			講義 DVD
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	外陰の疾患、膣の疾患について学習します。			講義
3	生殖器の解剖生理について	子宮の疾患、卵巣・卵管の疾患について学習します。			講義
4		感染性の疾患、不妊症について学習します。			講義
5		周産期の障害である妊娠中毒症・胎児仮死について学習します。			講義
6		流産・早産、常位胎盤早期剥離、帝王切開分娩、産褥熱について学習します。			講義
7					
8		乳房の疾患について学習します。			講義
9		精神現象の基礎・種類・状態像について学習します。			講義・DVD
10		精神症状の中樞神経症状について学習します。			講義
11		精神障がいの診断の基礎と要点について学習します。			講義
12		精神障がいの検査の種類について学習します。			講義・DVD
13		精神障がいの各種治療法について学習します。			講義・DVD
14		精神障がいの主な疾患であるアルコール依存と薬物依存、統合失調症について学習します。			講義・DVD
15		躁うつ病、神経症と心因精神病、パーソナリティ障害、児童・思春期の主な精神障がいについて学習します。			講義・DVD
		まとめ・試験			
テキスト		系統看護学講座 専門分野II 女性生殖器 成人看護学9 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 (医学書院)			
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	疾病論Ⅶ	単位数	1	開講時期	2年 前期	
学習目標	子どもの日常生活行動に障害をきたす小児期によく見られる主な健康障害や、症状の原因や病態理解・症状、診断や治療、検査について学び、今後の小児看護学に活用し看護の対象の状況把握、臨床判断能力を養うことを目標とします。					
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法	
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義 DVD	
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	各小児期 (新生児・乳児期、幼児・学童期・思春期) の形態的特徴と発達、スクリーニングについて学習します。				
3	各回に関する解剖生理について	小児期によく見られる疾病の原因や病態生理・症状、診断や治療、検査について学習します				講義
4		胎内での影響である染色体異常・低出生体重児について、運動器に障害のある先天性股関節脱臼について学習します。				講義
5		呼吸器の障害である肺炎・気管支喘息、アレルギーについて学習します。				講義
6		循環器に障害がある先天性心疾患・川崎病、脱水、熱性けいれんについて学習します。				講義
7		消化器に障害がある先天性奇形 (鎖肛) ・急性胃腸炎・腸重積症について、発達障害について学習します。				講義
8 (45分間)		血液・造血器に障害がある血管性紫斑病・白血病、腎・泌尿器に障害があるネフローゼ症候群・急性糸球体腎炎について、学習します。				講義
		感染症とワクチンについて、IDDM について学習します。			講義	
		試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院)					
参考図書等	病気の地図帳 講談社					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。					
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。					

授業科目	臨床薬理学	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	治療・処置に必要な薬物の特徴や作用機序、人体への影響について学ぶとともに薬物管理についての基礎的知識を学ぶことで、人間が普通に日常生活を営むことができるよう各看護学に活かし、対象の状況把握、臨床判断能力を養う基盤になることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
		薬理学総論 (薬物の薬理作用と人体への影響) について学習します			講義
2		薬の種類と法令について学習します。			講義
3		薬の種類と作用について学習します。			講義
4		抗感染症・消毒薬について学習します。			講義
5		免疫治療薬について学習します。			講義
6		アレルギーおよび炎症への薬物について学習します。			講義
7		末梢での神経活動への薬物について学習します。			講義
8		中枢神経系への薬物について学習します。			講義
9		心臓・血管系への薬物について学習します。			講義
10		呼吸器・消化器・生殖器系への薬物について学習します。			講義
11		代謝・内分泌系への薬物について学習します。			講義
12		抗癌剤について学習します。			講義
13		輸液・輸血剤、漢方薬について学習します。			講義
14		薬物の取り扱い、臨床薬理について学習します。			講義
15	まとめ・試験			講義	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院)				
参考図書等	からだの地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	臨床判断	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	臨床判断能力について理解し、看護実践につなげるために必要な形態機能学、疾病論等で学んだ知識を活用してフィジカルアセスメントを行うことで臨床判断能力を養い、専門分野における看護の展開の基盤となる科目となることを目標としています。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 臨床推論とは何かについて学習します。			講義
2	2回以降は次回学習内容に関連した内容および提示される課題に応じた内容を学習し授業に臨んでください	臨床判断の目的と方法について学習します。			講義
3		事例、シミュレーションによる臨床推論と臨床判断について学習します。① 呼吸器症状をもとに形態機能学 (人体の構造と機能) と関連させたフィジカルアセスメントを行います			講義・演習
4		事例、シミュレーションによる臨床推論と臨床判断について学習します。② 呼吸器症状をもとに疾病論 (疾病の成り立ちと回復) と関連させたフィジカルアセスメントを行います			講義・演習
5		事例、シミュレーションによる臨床推論と臨床判断について学習します。③ 循環器症状をもとに形態機能学 (人体の構造と機能) と関連させたフィジカルアセスメントを行います			講義・演習
6		事例、シミュレーションによる臨床推論と臨床判断について学習します。④ 循環器症状をもとに疾病論 (疾病の成り立ちと回復) と関連させたフィジカルアセスメントを行います			講義・演習
7		看護実践に必要とされる臨床判断能力についてのまとめを行います。			講義・GW
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学4 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 各成人看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院) 講師資料				
参考図書等	病気の地図帳 講談社				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	健康と公衆衛生	単位数	1	開講時期	3年 前期
学習目標	社会のなかで健康な生活を送る人たちに看護を提供するためには公衆衛生活動や看護の役割を理解する必要があることから、公衆衛生の基本内容を知り、健康生活に影響する保健活動を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス 公衆衛生とはについて学習します。			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	公衆衛生と健康の関連性について学習します。			講義
3		健康に関連した指標、感染症とその予防について学習します。			講義
4		生活環境における安全対策について学習します。			講義
5		地域保健 (学校保健、生活習慣病予防) について学習します。			講義
6		難病対策、職場の健康管理について学習します。			講義
7		公衆衛生の国際的環境について学習します。			講義
8 (45分間)		試験			
テキスト		系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 (医学書院)			
参考図書等	看護師のための地域看護学 (ピラールプレス)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	健康支援方法論	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	人々の健康を支援することは看護師の役割でもあることから、人々のその人らしい生活をするために、さまざまな健康支援の方法を学び、看護活動に活かす能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス 国民の健康状態と健康支援について学習します。			講義
2		ヘルスプロモーションについて学習します。			講義・演習
3	レクリエーションとは	健康を支えるためのレクリエーション、リラクゼーション、マインドフルネスについて学習します。			講義・演習
4	音楽療法とは	健康を支えるための音楽療法について学習します。			講義・演習
5	アロマセラピーとは	健康を支えるためのアロマセラピーの基本について学習します。			講義
6	アロマの効果	健康を支えるためのアロマセラピーと生活について学習します。			講義
7	皮膚の働きとは	健康を支えるためのスウェーデンハンドセラピーについて学習します。			講義・演習
8 (45分)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 (医学書院) 講師資料 アロマセラピー検定資料				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	災害医療論	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	近年、風水害や地震などの自然災害の頻度や規模が拡大し被害も増大している状況の中、災害医療への期待は大きく災害時の医療活動・救護活動について看護者も理解をしていく必要があります。災害看護を実践できるために、必要とされる災害医療に関する基礎的知識を学習し、災害看護に活かすことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス 「災害医療とは」について学習します。(定義・種類等)			講義・DVD
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください 実際の大災害時の医療活動について	災害の種類に応じた医療活動について学習します。			講義・DVD
3		災害における健康被害と医療の特徴について学習します。 (トリアージ)			講義・DVD
4		災害への対応について学習します。 (DMAT・DPAT・DHERT)			講義/DVD
5		災害情報・職種間連携について学習します。			講義
6		災害における課題と対策について学習します。			講義
7		災害に関連した法律について学習します。			講義
8		試験			
(45分間)					
テキスト	系統看護学講座 別巻 災害看護・国際看護学 (医学書院)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	リハビリテーション論	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	リハビリテーション医療に伴う身体内部の変化を理解して看護する必要があることからリハビリテーションに伴う身体の変化および看護の方法について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス リハビリテーションの歴史と概念について学習します。			講義・DVD
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	障害の分類と構造について学習します。			講義
3		リハビリテーションの分野、リハビリテーション医療システムについて学習します。			講義
4		リハビリテーションにおける看護師の役割について学習します。			講義・演習
5		リハビリテーション看護の方法について学習します。			講義・演習
6		機能障害の応じた援助方法 (運動機能・感覚器系) について学習します。			講義・演習
7		機能障害の応じた援助方法 (呼吸・循環・中枢神経系) について学習します。			講義・演習
8		試験			講義・演習
8 (45分間)					
テキスト	系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護	(医学書院)	
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	社会福祉学	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	生活者の健康を守るために、保健・医療・福祉サービスを統合的に理解し、法に基づく社会福祉の方法と課題を学ぶ必要があることから社会福祉制度について学び、今日の問題や課題について思考することを目標にします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス			講義・DVD 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
2		社会福祉・社会保障について学習します。			
3		社会福祉・社会保障の歴史について学習します。			
4		社会福祉の担い手と役割について学習します。			
5		社会福祉の実践方法について学習します。			
6		社会資源の活用方法について学習します。			
7		子ども・家族と福祉について学習します。			
8		障害者と福祉について学習します。			
9		高齢者と福祉について学習します。			
10		生活保護について学習します。について学習します。			
11		地域福祉について学習します。			
12		年金制度について学習します。			
13		医療保険制度について学習します。			
14		介護保険制度、について学習します。			
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 (医学書院)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	看護と法律	単位数	1	開講時期	3年 前～後期
学習目標	教育理念である人間の尊厳と権利を守るための看護を行うには、看護に関する法的役割と責任の範囲を学ぶ必要があることから看護に携わるものとして必要な基本となる法律を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス 法の概念と種類について学習します。			講義
2		衛生法規の分類について学習します。			講義
3		医事法規：看護法について学習します。			講義
4		医事法規：医師法・医療法について学習します。			講義
5		保健衛生法規：地域保健法、精神に関する法規について学習します。			講義
6		保健衛生法規：母子に関する法規、感染に関する法規、その他の保健衛生関係法規について学習します。			講義
7		薬事法：薬剤師法について学習します。			講義
8		薬事法：麻薬および向精神薬取締法、その他の薬事関係法規について学習します。			講義
9		環境衛生法規：食品衛生、生活環境整備について学習します。			講義
10		公害衛生法規：環境衛生関係営業、環境保全について学習します。			講義
11		労働に関する法規：労災保険、雇用保険について学習します。			講義
12		保健師助産師看護師法による業務範囲について学習します。			講義
13		医師業務との関係について学習します。			講義
14		医療訴訟問題の現状について学習します。			講義・DVD
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 (医学書院)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				